

# 現代音楽 味わう旅へ

今春始まる第63回大阪国際フェスティバル2025。大阪の四つのオーケストラが集う5月の「4オケ」公演では、大阪・関西万博の開催を記念し、世界の名曲とともに現代日本の楽曲が演奏される。4月に日本センチュリー交響楽団の音楽監督に就任し、「4オケ」で指揮する久石譲さんに、現代の音楽への思いを聞いた。(田部愛)

## 日本センチュリー響を指揮 久石譲さん



滝沢美穂子撮影

### 新しい曲を未来へもつと日本も演奏を

### 僕はリズム主体 「オケの迫力」若者にも

は、日本だけです。状況を変えたい。4月に就任する日本センチュリー交響楽団の音楽監督を引き受けた条件のひとつは、現代曲を演奏していくということでした。その方針をどんどん貫いていくつもりでいます。

——そもそもクラシック音楽自体に難しいイメージを持っている人は多いと思います。特にSNSなどで短時間のコンテンツに慣れている若い人にとって、ハードルが高いと感じます。

確かにクラシック音楽は長いし、1、2回聴いたくらいだと面白みは分からないんですね。それが当然だと思う。

以前、僕の指揮するクラシックの演奏会に来た人に「まるでロックを聴いているみたいでした」と言われました。僕はリズム主体で演奏するので聴きやすく、喜ばれたのだと思います。もしかしたらそれが共通項になって、若い人にも「オケってこんな迫力あるんだ」と思ってもらえるかもしれない。きっかけを提示できたらいいと感じます。

現代の音楽にしても、不協和音の難しい楽曲ということではなく、オケは観客を意識して、時代に即した曲をやってほしいと思います。

——日本センチュリー交響楽団とは、音楽監督に就任して初めてのコンサートになります。

楽団とは、首席客演指揮者として2021年から一緒にやってきました。お互いに慣れていいコンビネーションができてきた今の状態で、より強いアンサンブルを聴かせられればいいかなと思っています。

クラシック音楽は「古典芸能」になってしまおう。特に日本のオーケストラは同じようなプログラムばかりで、演奏する楽曲の偏りが激しいと感じます。海外では、新しい曲がどんどん演奏されています。

過去から来たものがつながり、現代でも新しい曲ができる。その中から、未来に残るものが生まれる。この循環をさせる努力をしていないの

——作曲家として広く知られていますが、近年は国内外のオーケストラで指揮者としても、精力的に活動されています。

作曲家として面白いと思った曲は、目の前で音を鳴らしてオーケストラに指導しながら演奏していくと、ただ聴いていたときよりもっと深い景色を見られます。この名曲のなにがすばらしいのか、なぜ生き残ったのか。譜面を見ているだけでは分からないことがつさに分かる。それは、作曲にも生きてくるんです。

——「4オケ」では、ストラヴィンスキーのバレエ組曲「火の鳥」と、久石さんが2023年に作曲した「Adagio for 2 Harps and Strings」を演奏します。

「火の鳥」は、ロシア・バレエ団が1910年にパリで初演したバレエのための作品なので、ロシア・フランスになります。他の楽団の選曲もみて、プログラム全体のまとまりがすごく良くなるんじゃないかな、と選びました。

「Adagio for 2 Harps and Strings」は二つのハープとストリングス(弦楽器)の曲です。マーラーの交響曲第5番と同時に演奏するために作曲したもので、第4楽章「アダージェット」を意識して、遅いテンポの曲を書きたかった。「火の鳥」は激しい曲ですし、編成が違っているのも良いと思いました。

——現代音楽が日本で取り上げられる機会は多くはありません。古典作品の演奏だけだったら、ク

## 都市の輝き表現 体に喜び

「4オケ」では、関西フィルハーモニー管弦楽団が「東京夜想曲」を演奏する。作曲した萩森英明さんに、今回演奏される日本の現代音楽の魅力について話を聞いた。

### 「東京夜想曲」作曲 萩森英明さん



「東京夜想曲」は、生まれ育った東京の夜景をイメージした曲です。子どもの頃、親戚が連れて行ってくれた夜のドライブ中に首都高速から見た景色が好きで、音楽で表現できたかと思えました。冒頭の、チェレスタやハーブ、フルートで演奏する短い音は、ビルの光を表していま

す。最初は静かに、街を遠くから俯瞰しているような感じから、そこから曲が進むにつれて、車は街中に入り込んでいき、最後はまた遠ざかる。ヒューと落ちてくるような弦楽器の小さな音は、ドライブ中の車が行き交う様子をイメージしています。そこから曲が進むにつれて、車は街中に入り込んでいき、最後はまた遠ざかる。ヒューと落ちてくるような弦楽器の小さな音は、ドライブ中の車が行き交う様子をイメージしています。

2023年が初演で、2回の演奏になりましたが、曲のどんな新しい側面が見えるのか期待しています。今回は他にも、現代の日本で作られた曲が演奏されます。大阪フィルハーモニー交響楽団が披露する「波の盆」は、ハワイを舞台にした同名のテレビドラマのテーマ曲として、1983年に武満徹さんが作った楽曲です。武満さんは映画やテレビの劇音楽を多く残しました。前衛的なものも含めてさまざまなスタイルの曲があります。が、「波の盆」は非常に聞きやすく、素材で美しいメロディーです。現代音楽に親しんでこなかった人が、最初に触れるものとしてもふさわしいのではないのでしょうか。大阪交響楽団が演奏する、外山雄三さんの作曲の「管弦楽のためのラプソディ」は、お祭りのような雰囲気、盛り上がりがあります。「あなたかたごさ」など知っているメロディーが出てきて、血湧き肉躍る。中盤の「信濃追分」は美しい。指揮者でもあった外山先生の、「お客さんの目の前で、こんな音を鳴らしたい」という思いが伝わってきます。今回、演奏される現代音楽はどれも、体に喜びが自然と湧いてくるような楽しい曲だと思えます。他の現代音楽にも興味を広げていくきっかけになればうれしいです。

## フェニーチェ歌劇場合唱団 4月特別公演

イタリア・ベネチアのフェニーチェ歌劇場合唱団が、大阪・関西万博開幕を記念して来日し、1日限りの特別公演を開きます。2013年、新フェスティバルホールのこけら落としを飾ったフェニーチェ・ヴェルディ「ナブucco」(「椿姫」)、「ブッチーニ」(「蝶々夫人」)、「トゥーランドット」など、名作オペラの合唱曲をピアノ伴奏付きで披露します。朝日新聞社ほか共催。朝日新聞文化財団ほか後援。4月22日(火)午後7時、フェスティバルホール(大阪中之島)▽S席7500円、A席6千円ほか。問い合わせはキョードーインフォメーション(0570・200・888)チケットはフェスティバルホール(06・6231・2221、https://www.festivalhall.jp)。

## 大阪4オケ2025

- ◆大阪フィルハーモニー交響楽団
  - 指揮 音楽監督・尾高忠明
  - ♪武満徹 「波の盆」組曲(日本)
  - ♪プリテン 歌劇「ピーター・グライムズ」より「4つの海の間奏曲」(英国)
- ◆関西フィルハーモニー管弦楽団
  - 指揮 首席客演指揮者・鈴木優人
  - ♪萩森英明 「東京夜想曲」(日本)
  - ♪バーンスタイン 「ウェスト・サイド・ストーリー」より「シンフォニック・ダンス」(米国)
- ◆大阪交響楽団
  - 指揮 常任指揮者・山下一史
  - ♪外山雄三 「管弦楽のためのラプソディ」(日本)
  - ♪R・シュトラウス 交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」(ドイツ)
- ◆日本センチュリー交響楽団
  - 指揮 音楽監督(4月就任予定)・久石譲
  - ♪久石譲 「Adagio for 2 Harps and Strings」(日本)
  - ♪ストラヴィンスキー バレエ組曲「火の鳥」(1945年版)(ロシア)

- 提携公演「東京都交響楽団 創立60周年記念 大阪特別公演」
  - 4月20日(日)午後2時▽大野和士(指揮)、アリョーナ・パーエワ(バイオリン)▽ショスタコービチ「バイオリン協奏曲第1番」、チャイコフスキー「交響曲第5番」▽S席6500円ほか
- 大阪・関西万博開催記念 大阪4オケ2025
  - 5月10日(土)午後2時▽S席1万円、A席7500円、学生席3500円。他の席種は完売▽協賛:朝日放送グループホールディングス、関西電力、サントリーホールディングス、ダイキン工業、大和ハウス工業、高砂熱学工業、竹中工務店、西原衛生工業所、後援:2025年日本国際博覧会協会
- 神尾真由子×日本センチュリー交響楽団 華麗なる2大コンチェルト
  - 9月23日(火・祝)午後2時▽神尾真由子(バイオ

- リン)、大友直人(指揮)▽メンデルスゾーン:「夏の夜の夢」序曲、バイオリン協奏曲、チャイコフスキー:バイオリン協奏曲▽S席8千円、A席6500円ほか。3月29日(土)一般発売▽協賛:朝日放送グループホールディングス、竹中工務店
- クリスティアン・ティールマン指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
  - 11月7日(金)午後7時▽5月一般発売

◇会場:フェスティバルホール(大阪・中之島)  
◇主催:朝日新聞文化財団、朝日新聞社、フェスティバルホールほか  
◇チケットはフェスティバルホール(06・6231・2221、https://www.festivalhall.jp)ほか主要プレイガイドで販売